

<和歌山市における「セミの抜け殻調査」 の全調査結果>

○城北公園 調査結果 （資料：和歌山市立こども科学館）

	クマゼミ	アブラゼミ	ニイニイゼミ	ツクツクボウシ	ミンミンゼミ	合計	参加者数	自然度
2006. 8. 5	67	18	0	0	0	85	26	1
2007. 8. 12	82	44	0	0	0	126	33	1
2008. 8. 10	150	44	2	0	0	196	32	1+
2009. 8. 9	94	51	0	0	0	145	24	1
2010. 8. 8	175	87	0	0	0	262	45	1
2011. 8. 13	179	153	0	0	0	332	51	1
2012. 8. 9	40	45	0	1	0	86	58	2
2013. 8. 11	245	95	0	0	0	340	35	1
2014 中止						—	—	
2015 年以降 公園廃止								

考察：

クマゼミの生息している割合が多いことから、森林が近くになくて高温で乾燥した環境であることが推測できる。

○和歌山城 二の丸広場虎伏像前 調査結果 （資料：和歌山市立こども科学館）

	クマゼミ	アブラゼミ	ニイニイゼミ	ツクツクボウシ	ミンミンゼミ	合計	参加者数	自然度
2005.8.6	98	287	4	3	0	392	21	3
2006.8.5	196	283	2	2	0	483	26	3
2007.8.12	97	405	0	0	0	502	33	2
2008.8.10	145	513	2	2	0	662	32	3
2009.8.9	38	141	0	0	0	179	24	2
2010.8.8	168	532	3	1	0	704	45	3
2011.8.13	144	513	2	0	0	659	51	3
2012.8.12	169	343	1	0	0	513	58	3
2013.8.11	115	238	2	0	0	355	35	3
中止	—	—	—	—	—	—	—	
2015.8.9	65	196	2	0	0	263	28	3
2016.8.7	241	436	5	0	0	682	33	3
2017.8.6	350	178	2	2	0	532	34	2
2018.8.4	415	387	1	2	0	805	43	2
2019.8.4	492	313	4	2	0	811	43	2
2020.8.2	260	74	2	0	0	336	27	1+
2021.8.1	465	223	1	0	0	689	20	1+
2022.7.31	182	49	3	0	0	234	20	2
2023.7.30	718	195	5	0	0	918	25	2
2024.8.4	271	61	1	6	1	340	23	2
2025.8.3	341	81	1	0	0	425	19	1+
2026.8.2	501	107	0	0	0	608	25	1

考察：

1. 2016 年まではアブラゼミがクマゼミより多く生息していることやニイニゼミやツクツクボウシも少し生息していることから、森林が近くにあり城北公園より湿度が高く自然度も城北公園より高い環境であると推測できる。

2. 2017 年からアブラゼミよりクマゼミの生息数が多くなっている。この期間二の丸広場や和歌山城の森の樹木構成に変化はないので、周りの都市乾燥化や都市温暖化、地球温暖化により、二の丸広場の乾燥化、温暖化が進んでいると推測できる。

○和歌山城 動物園付近 調査結果

	クマゼミ	アブラゼミ	ニイニゼミ	ツクツクボウシ	ミンミンゼミ	合計	参加者数	自然度
2019.8.18	244	127	8	1	1	381	22	4

考察：

クマゼミが優先するが、ミンミンゼミの抜け殻があり、かつニイニゼミの生息も多いことから自然度が高い、和歌山城の森と隣接しているので、森との境のところで土中の湿度が比較的高いことが推測できる。

和歌山市汀公園 調査結果

	クマゼミ	アブラゼミ	ニイニゼミ	ツクツクボウシ	ミンミンゼミ	合計	参加者数	自然度
2019.8.18	102	13	2	0	0	117		1+

考察：

クマゼミの優先率が高いのだが、ニイニゼミが 2 個発見されているので、自然度が 1+ である。

ニイニゼミの抜け殻は、公園内の一部分で林になっている所で発見しているので、この部分のみ比較的湿度が高いことが推測できる。